

おみょうじん こあかざわ

②一級河川雫石川筋御明神小赤沢地区河川等災害関連事業

受賞機関 岩手県 盛岡広域振興局 土木部

全建賞審査委員会の評価ポイント

秋田・岩手を中心に甚大な被害を生じさせた「平成25年8月9日からの豪雨」による災害の関連事業。甚大な災害があった現場で、多自然川づくりアドバイザーの指導を適切に得ながら、「美しい山河を守る災害復旧基本方針」を活用しつつ景観や自然環境にも配慮し、求められる河道能力を発揮する川づくりを実施したもので、他地域への模範となったことを評価。

1. はじめに

北上川水系の雫石川は、秋田県境に位置する秋田駒ヶ岳（標高1,637m）に源を発し、雫石町、滝沢市及び盛岡市の平野を貫流し、北上川に合流する流路延長約33kmの一級河川である。

流域で既往最大（日雨量351mm、時間最大雨量88mm）の雨量を記録した「平成25年8月9日からの豪雨」により、急流であることに加え、河積が十分に確保されていなかった雫石町御明神小赤沢地区（約1.7km）に洪水被害が集中した。このため「河川等災害関連事業」を導入し、景観・自然環境に配慮しながら、河積の拡大及び護岸工等を整備し、被災時流量が安全に流下できるよう「治水安全度の向上」を図った。



雫石川 御明神小赤沢地区 河川等災害関連事業

2. 事業の概要

事業延長は1,718m、堆積土砂の除去及び河道幅に伴う河道掘削工約43千㎡の他、護岸工約7千㎡、根固工780個等を整備した。事業費は約4.8億円である。

雫石川上流部は豊かな河川環境を有していることから、事業実施にあたっては「多自然川づくりアドバイザー制度」を活用したほか、事業採択直後の平成26年3月に改定された「美しい山河を守る災害復旧基本方針」の改

定ポイントである「河岸・水際部の処理」や「護岸ブロックの配慮事項」等を積極的に取り入れ、河川景観及び生物の良好な生息・生育環境の保全・創出を図る計画とした。

3. 事業の成果

①周囲の自然景観に配慮した護岸工

河道特性を踏まえて護岸整備は必要最低限としたうえで、使用する護岸ブロックは「明度6以下」「豊かなテクスチャー」「見かけ上の素材の大きさが目立たない形状」等の仕様を規定した。加えて、小口止めや調整コンクリート、排水樋管吐口部等の現場打ち部分の意匠を護岸ブロックと統一し、二次製品の使用による施工の効率化と自然景観との調和を両立させた。

また、護岸ブロックの天端には覆土を施し、川全体が柔らかい印象になるように配慮した。

②河岸・水際部の処理、水制工等の設置

全区間の護岸前面に「寄せ石」を施した他、部分的に「水制工」「パーブ工」「自然落差工」を設置し、自然豊かな水際の再生を図った。

③河畔木の保全

河畔木が残る区間については「鑄鉄製カゴ積工」を採用し、樹木の伐採を最小限にした。



寄せ石と護岸天端覆土による植生回復

4. おわりに

多自然川づくりアドバイザーをはじめとした多くの関係者の方々の御助言をいただきながら事業を進め、無事完成を迎えることができた。関係者の皆様改めて感謝を申し上げる次第である。

賛助会員 (株)中村建設